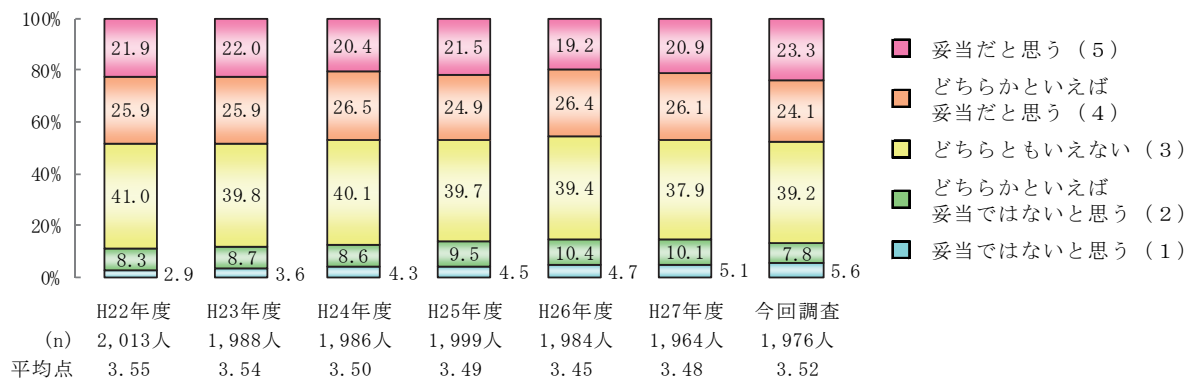


10 裁判員裁判の傾向について(執行猶予付判決における保護観察の割合)

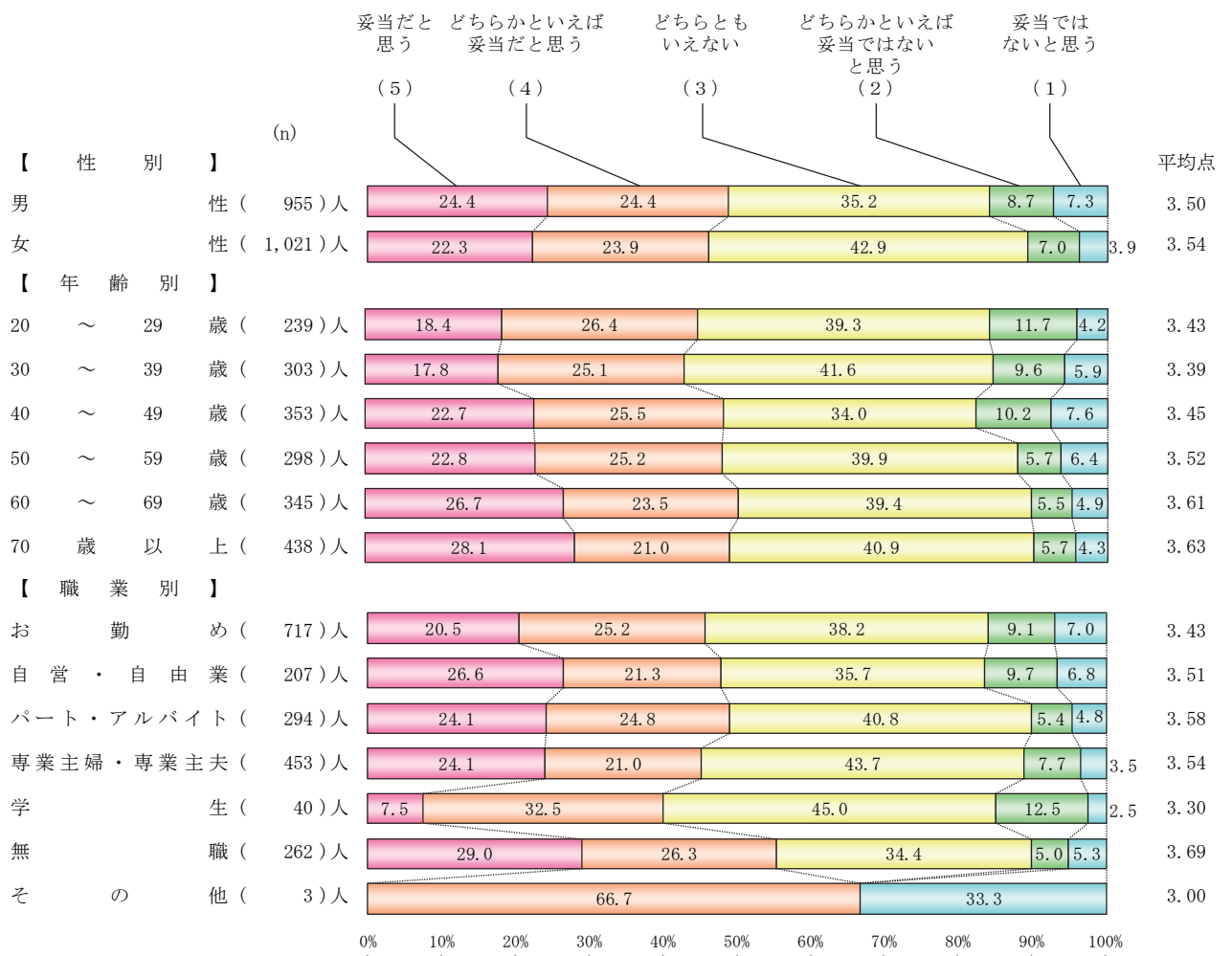
【資料1】 刑事裁判で刑の執行を猶予する場合には、被告人を保護観察に付すことができます。保護観察とは、保護観察所による指導監督を受けることを義務づけ、更生を図る制度です。これまでの執行猶予判決の中で保護観察が付された割合を見ると、裁判官のみの裁判では32.1%であるのに対し、裁判員裁判では54.7%となっています。

Q10 【回答票10】 裁判員裁判におけるこのような傾向について、あなたはどのように思いますか。



裁判員制度で、保護観察が付された割合が裁判官のみの裁判より高くなっていることについて、『妥当だと思う』（「妥当だと思う」＋「どちらかといえば妥当だと思う」）は47.4%、『妥当ではないと思う』（「どちらかといえば妥当ではないと思う」＋「妥当ではないと思う」）は13.4%となっている。

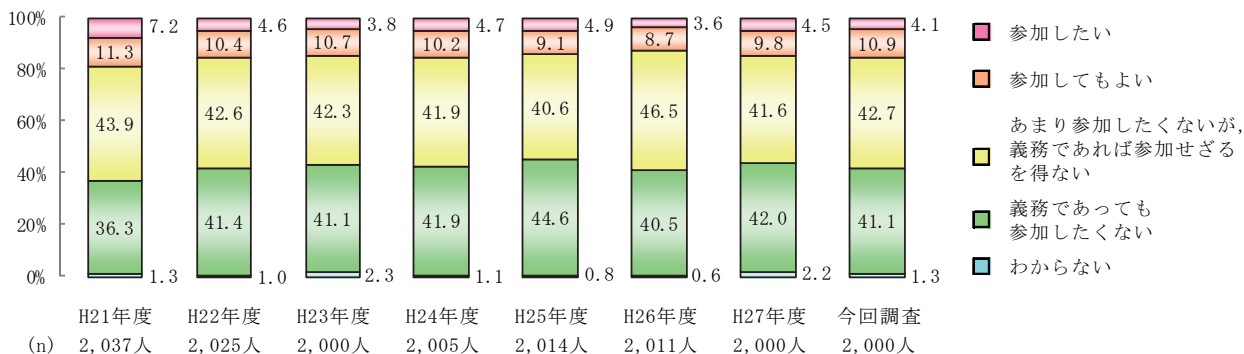
(注) 裁判官のみの裁判 32.1%＝平成18年1月1日から平成21年5月20日までの判決宣告分の数値
 裁判員制度 54.7%＝平成25年6月1日から平成28年10月31日までの判決宣告分の数値



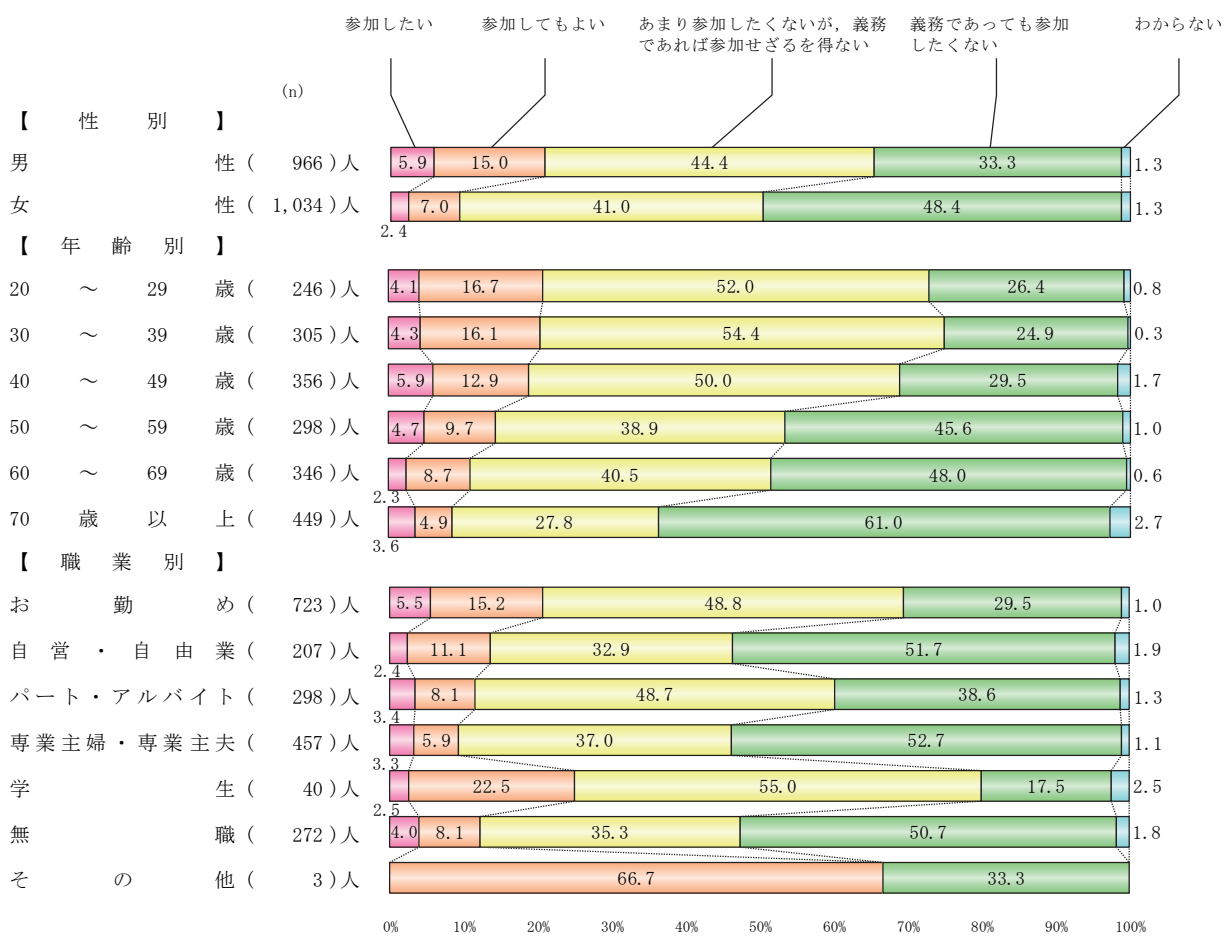
裁判員裁判で、保護観察が付された割合が『妥当だと思う』（「妥当だと思う」＋「どちらかといえば妥当だと思う」）と答えた割合は、男女別、年齢別では、大きな差はみられない。職業別では、無職が最も高くなっている。

11 裁判員として刑事裁判に参加したいか

Q 1 1 【回答票 1 1】 あなたは裁判員として刑事裁判に参加したいと思いますか。



裁判員として刑事裁判に参加したいかどうかについては、「参加したい」が 4.1%、「参加してもよい」が 10.9%、「あまり参加したくないが、義務であれば参加せざるを得ない」が 42.7%、「義務であっても参加したくない」が 41.1%となっている。

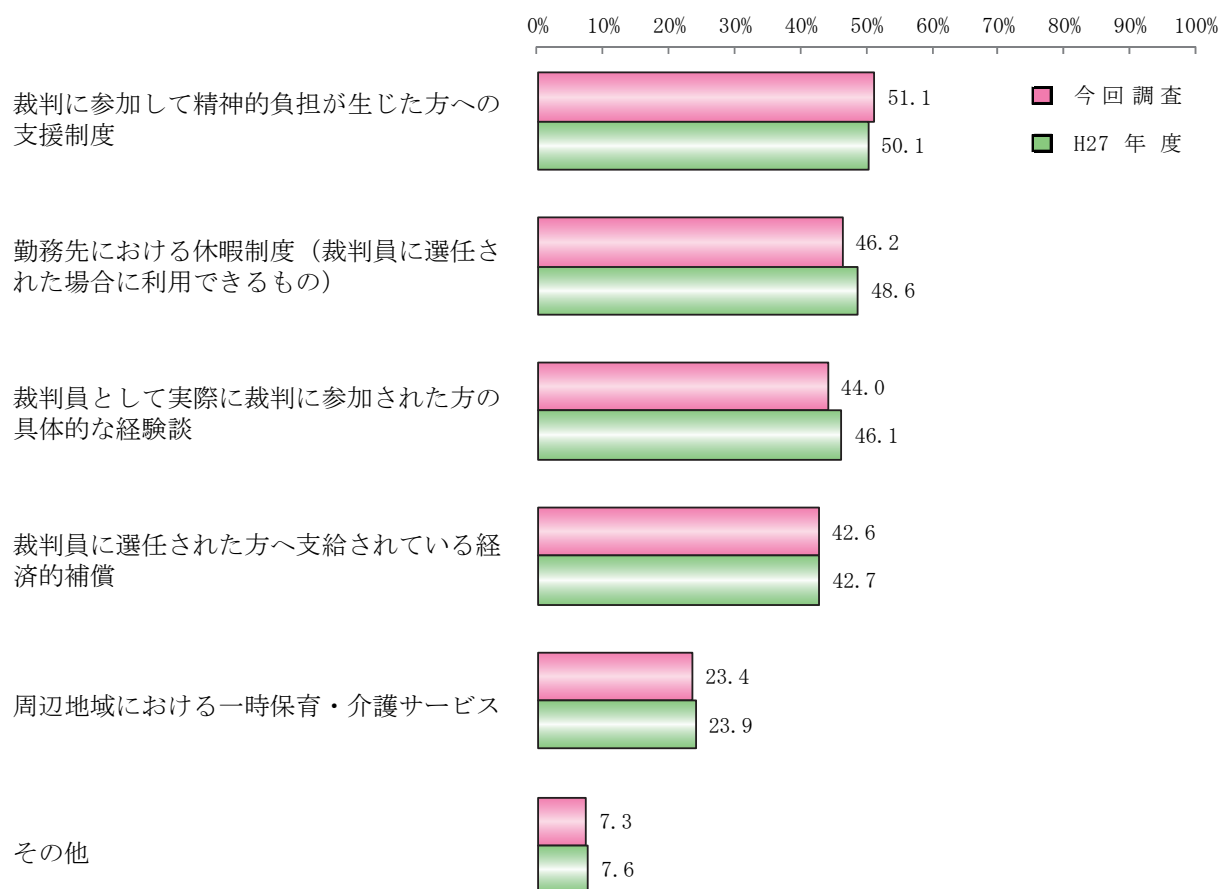


「参加したい」、「参加してもよい」と答えた者の割合は、男女別では、男性で高くなっている。年齢別では、20代と30代が高く、職業別では、学生とお勤めが高くなっている。

12 裁判員制度への参加意欲を高めるために必要な情報

【資料2】実際に裁判員を経験された方のうち、48.4%の方が、裁判員に選ばれる前は、裁判員を「あまりやりたくなかった」「やりたくなかった」と回答されています。その一方で、裁判員として裁判に参加した感想についてお聞きすると、96.1%の方が、「よい経験」「非常によい経験」と感じたという回答されています。（平成27年度アンケート調査結果報告書）

Q12 【回答票12】 あなたが裁判員に選ばれるかもしれないとして、参加意欲を高めるために必要な情報はどれですか。当てはまるものを、この中からすべてあげてください。（M.A.）



(n=2,000, M.T.=214.5%)

裁判員に選ばれると仮定した上で、参加意欲を高めるために必要な情報として、「裁判に参加して精神的負担が生じた方への支援制度」が51.1%、「勤務先における休暇制度（裁判員に選任された場合に利用できるもの）」が46.2%、「裁判員として実際に裁判に参加された方の具体的な経験談」が44.0%、「裁判員に選任された方へ支給されている経済的補償」が42.6%、「周辺地域における一時保育・介護サービス」が23.4%などとなっている。

	該当数 (n)	が裁判に生じた参加への支援的負担	に(裁判員に選任された場合)	勤務先における休暇制度	参加された方としての具体的な経験談	裁判員に選任された方への経済的補償	周辺地域における一時保育・介護サービス	その他	回答計
TOTAL	2,000	51.1	46.2	44.0	42.6	23.4	7.3	214.5	
【性別】									
男	966	46.5	50.0	37.2	46.7	17.4	7.9	205.6	
女	1,034	55.3	42.6	50.3	38.8	28.9	6.8	222.7	
【年齢別】									
20～29歳	246	42.7	70.3	35.4	54.9	25.6	2.4	231.3	
30～39歳	305	50.5	65.6	45.9	48.9	28.2	3.0	242.0	
40～49歳	356	53.4	61.5	46.9	55.3	26.7	2.8	246.6	
50～59歳	298	54.7	56.0	46.6	45.6	23.5	5.7	232.2	
60～69歳	346	55.2	28.3	48.6	32.1	19.1	9.0	192.2	
70歳以上	449	48.6	14.9	39.6	27.6	19.4	16.3	166.4	
【職業別】									
お勤め	723	48.4	69.2	41.9	49.2	19.2	4.3	232.2	
自営・自由業	207	46.9	34.3	40.1	51.2	21.7	12.1	206.3	
パート・アルバイト	298	53.0	58.7	48.0	48.3	29.5	4.0	241.6	
専業主婦・専業主夫	457	54.5	24.1	50.3	29.8	31.3	9.4	199.3	
学生	40	45.0	55.0	27.5	60.0	20.0	7.5	215.0	
無職	272	54.0	16.2	39.3	31.3	15.8	11.8	168.4	
その他の	3	66.7	66.7	66.7	33.3	33.3	-	266.7	

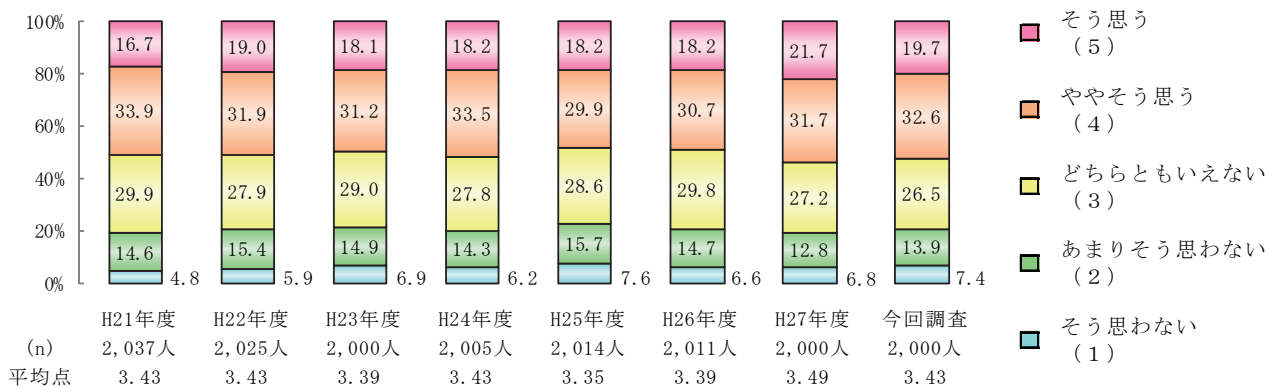
男女別にみると、「勤務先における休暇制度（裁判員に選任された場合に利用できるもの）」、「裁判員に選任された方へ支給されている経済的補償」は男性で高く、「裁判に参加して精神的負担が生じた方への支援制度」、「裁判員として実際に裁判に参加された方の具体的な経験談」、「周辺地域における一時保育・介護サービス」は女性で高くなっている。

年齢別に見ると、「勤務先における休暇制度（裁判員に選任された場合に利用できるもの）」、「裁判員に選任された方へ支給されている経済的補償」、「周辺地域における一時保育・介護サービス」は60代以上で低くなっている。

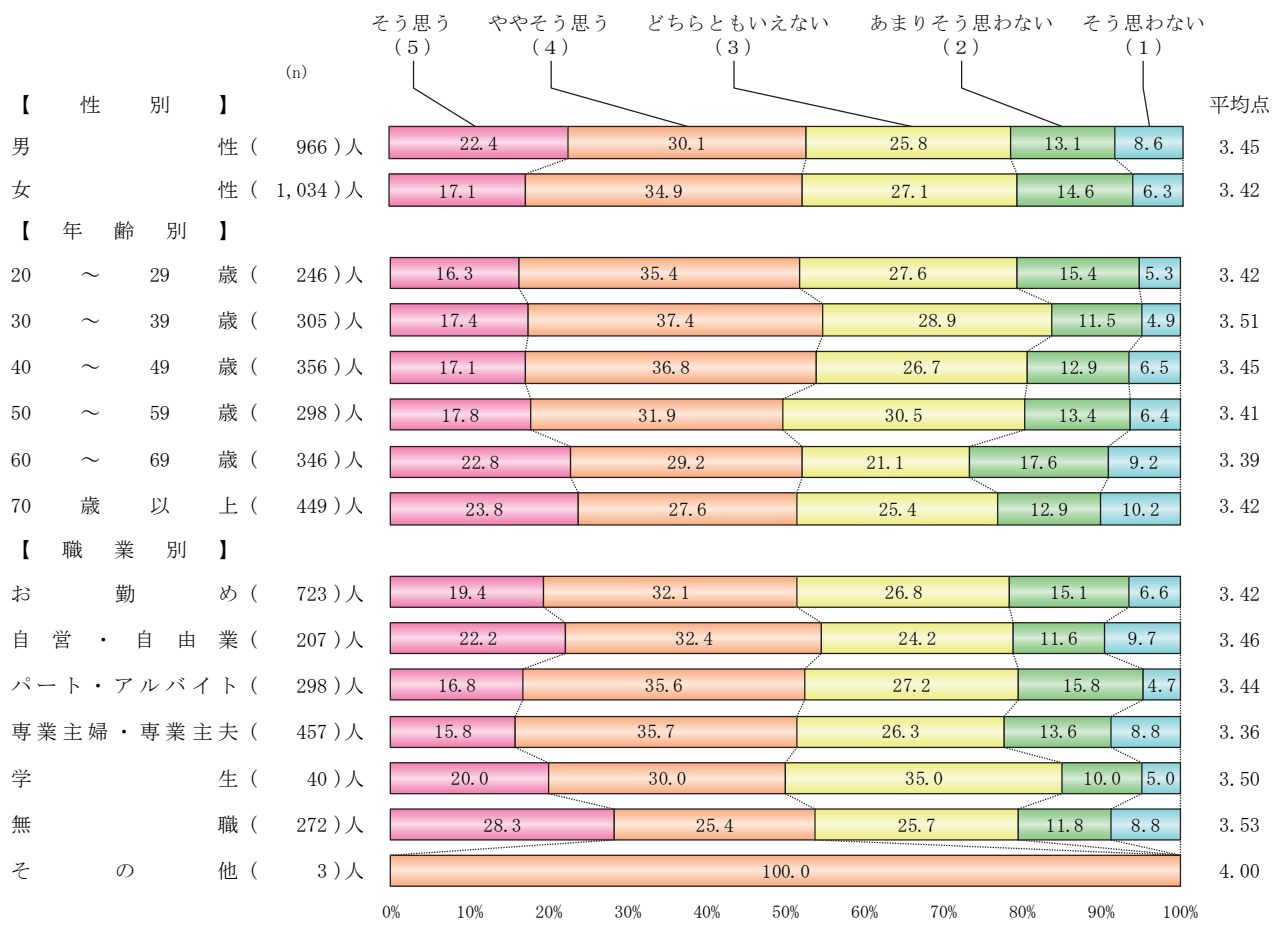
職業別にみると、「勤務先における休暇制度（裁判員に選任された場合に利用できるもの）」はお勤めが最も高く、「周辺地域における一時保育・介護サービス」は専業主婦・専業主夫が最も高くなっている。

13 刑事裁判や司法などに国民が自主的に関与すべきか

Q 1 3 【回答票 1 3】 刑事裁判や司法など公の事柄については、国や専門家に任せておくのではなく、国民が自主的に関与すべきであるという考え方について、あなたはどのように思いますか。

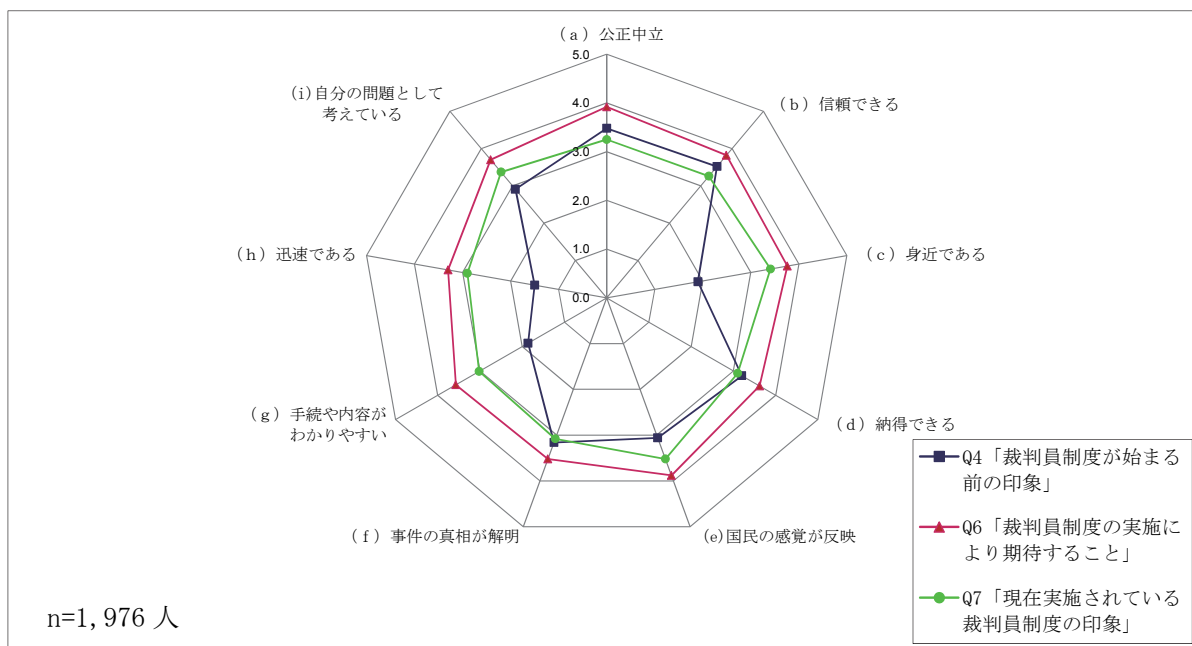


刑事裁判や司法などに国民が自主的に関与すべきであるという考え方については、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は52.3%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は21.3%となっている。



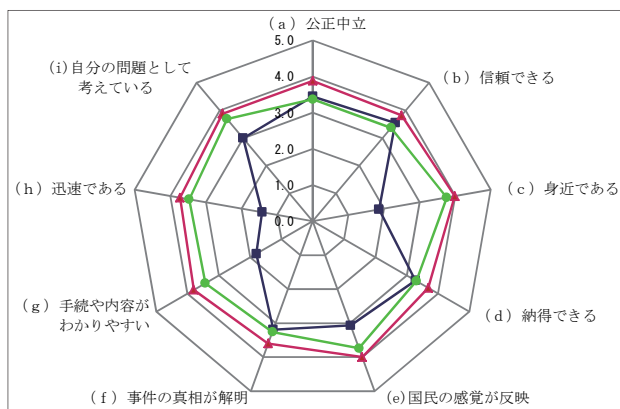
『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別、年齢別、職業別、いずれも大きな差はみられない。

14 制度開始前・実施への期待・実施後の変化

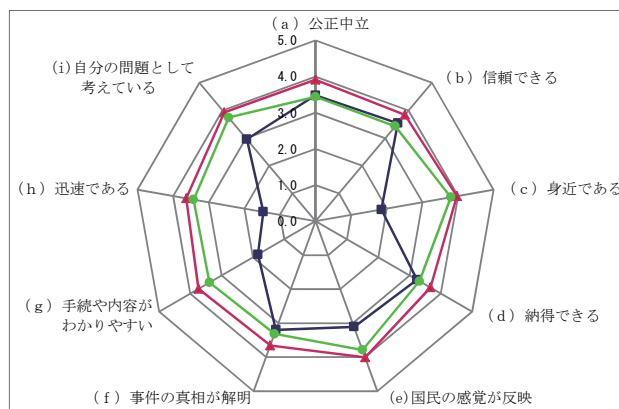


Q4：「裁判員制度が始まる前の印象」、Q6：「裁判員制度の実施により期待すること」、Q7：「現在実施されている裁判員制度の印象」の各問の9項目それぞれの点数を比較してみると、「(c) 身近である」、「(g) 手続や内容がわかりやすい」、「(h) 迅速である」はQ4よりもQ6、Q7の点数が目立って高くなっている。

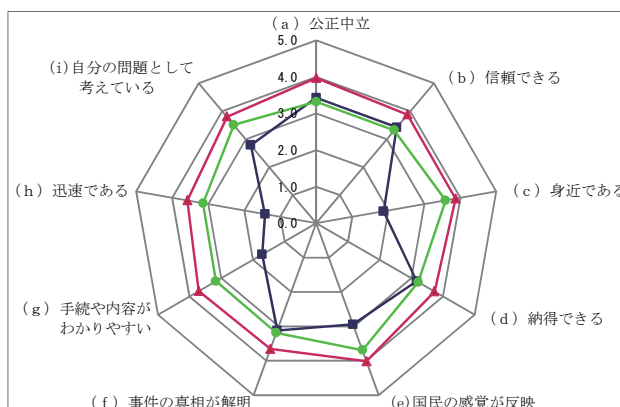
(平成21年度調査結果)



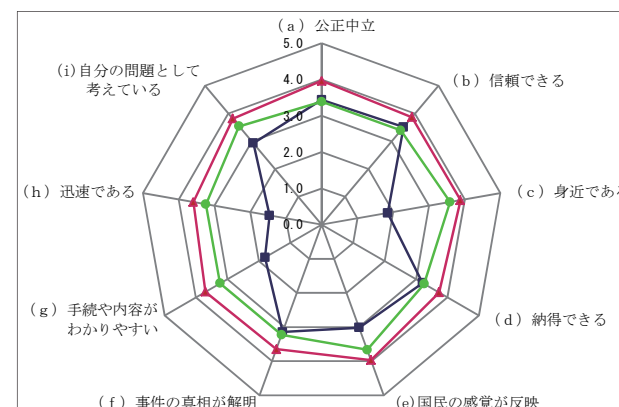
(平成22年度調査結果)



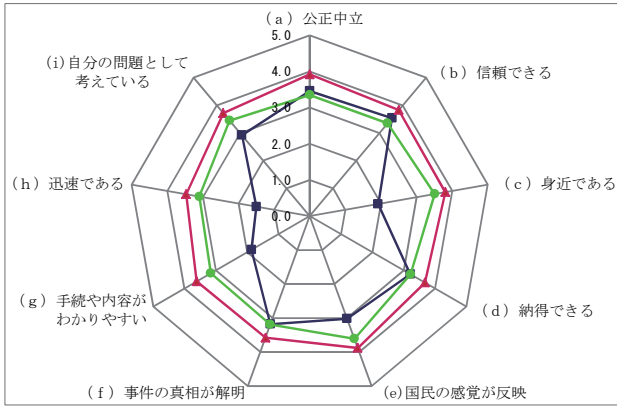
(平成23年度調査結果)



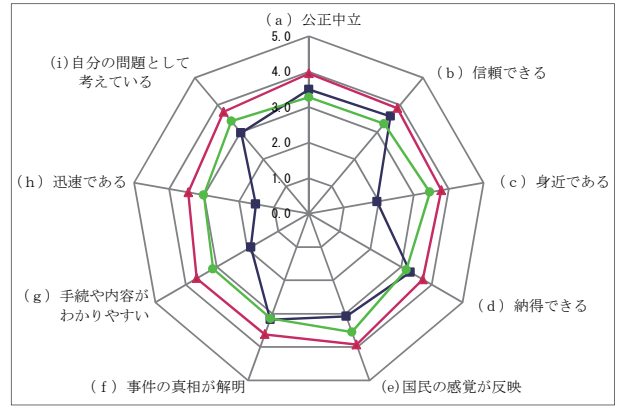
(平成24年度調査結果)



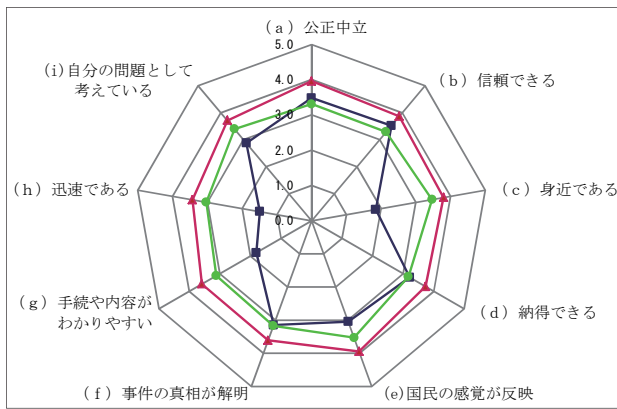
(平成25年度調査結果)



(平成26年度調査結果)

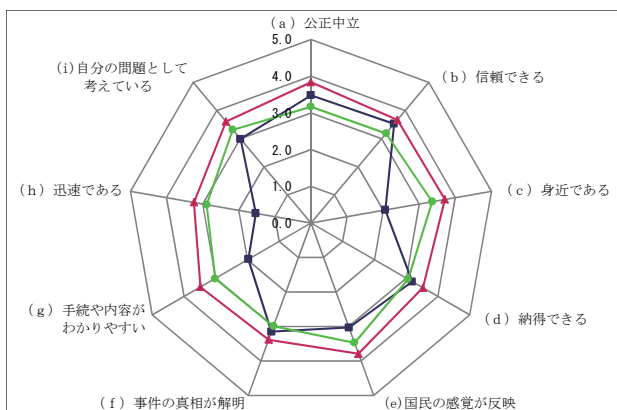


(平成27年度調査結果)

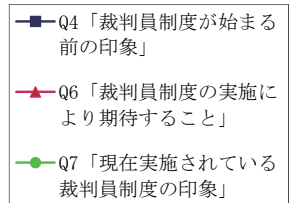
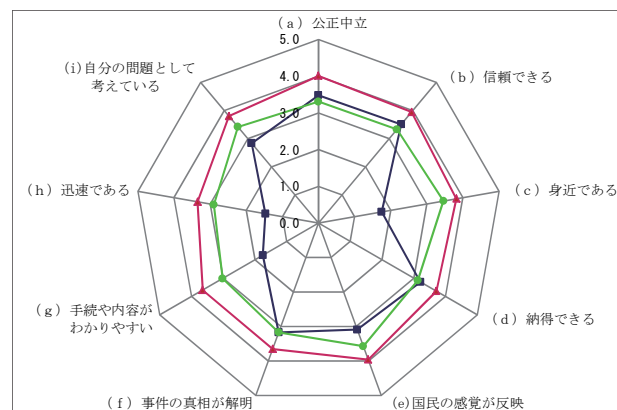


【性別】(今回調査)

男性

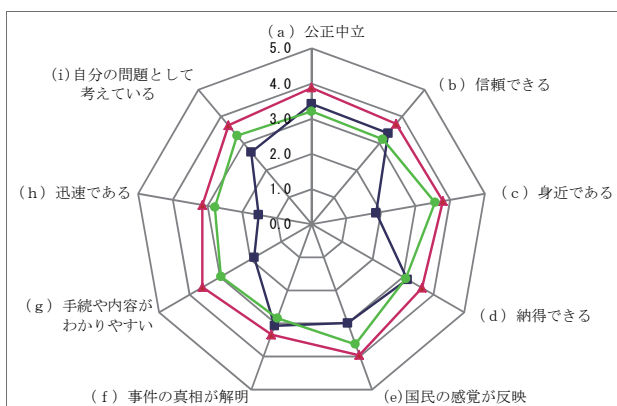


女性

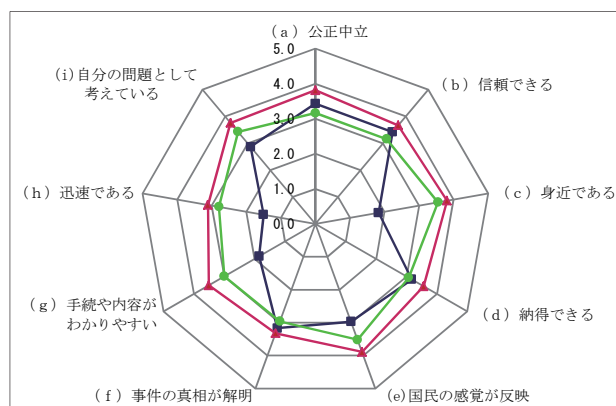


【年齢別】（今回調査）

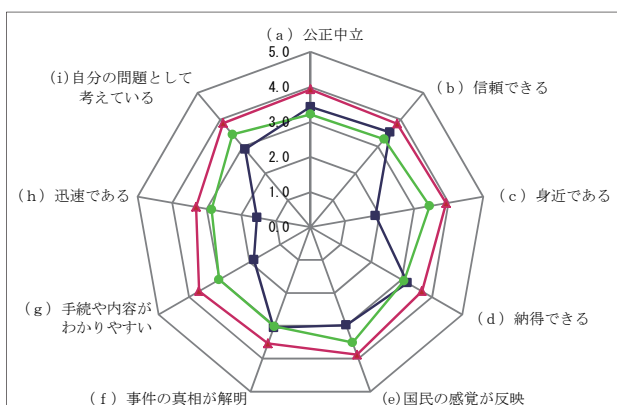
20代



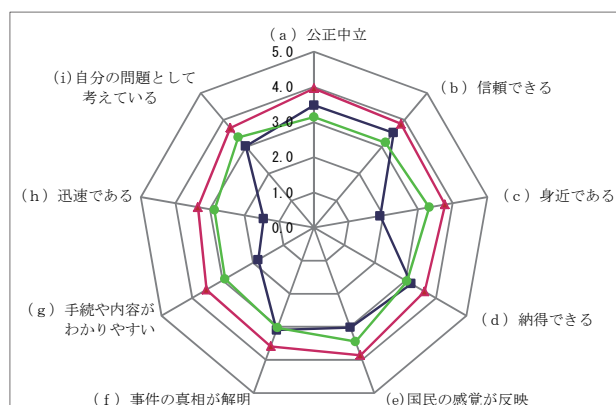
30代



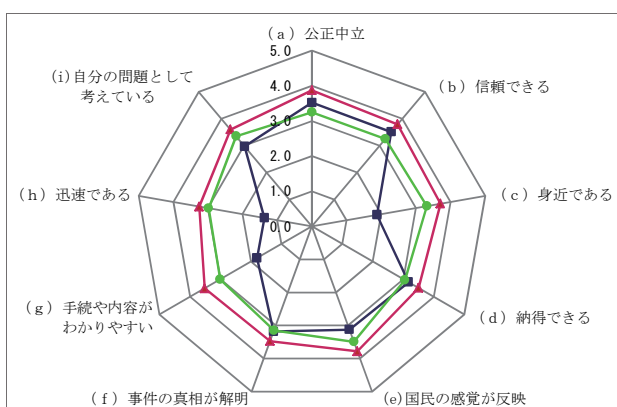
40代



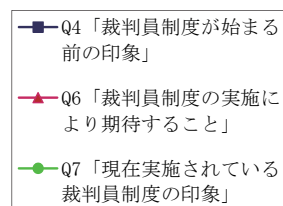
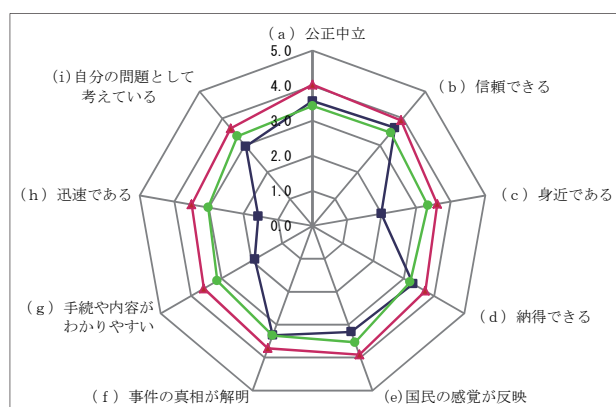
50代



60代



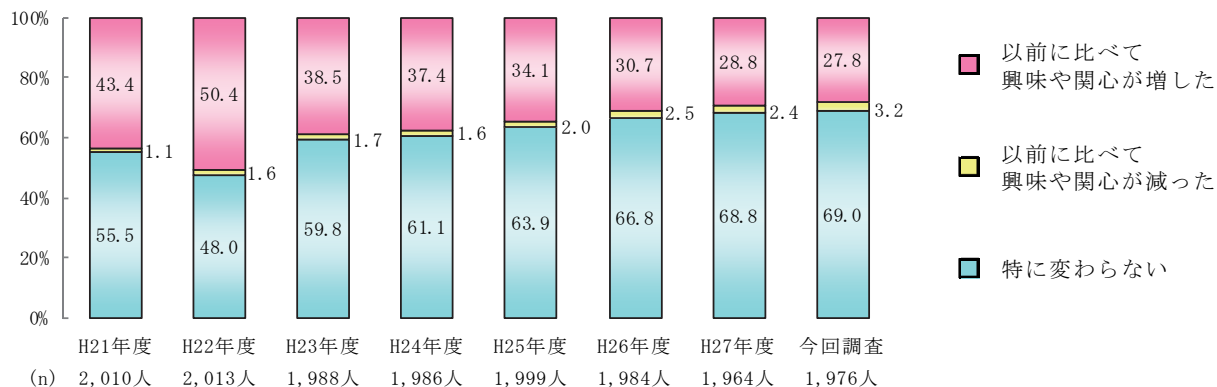
70歳以上



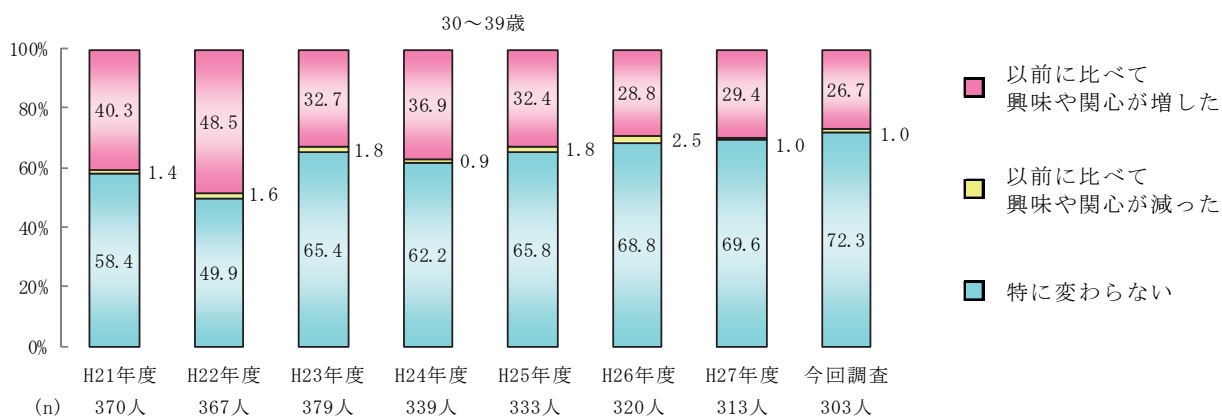
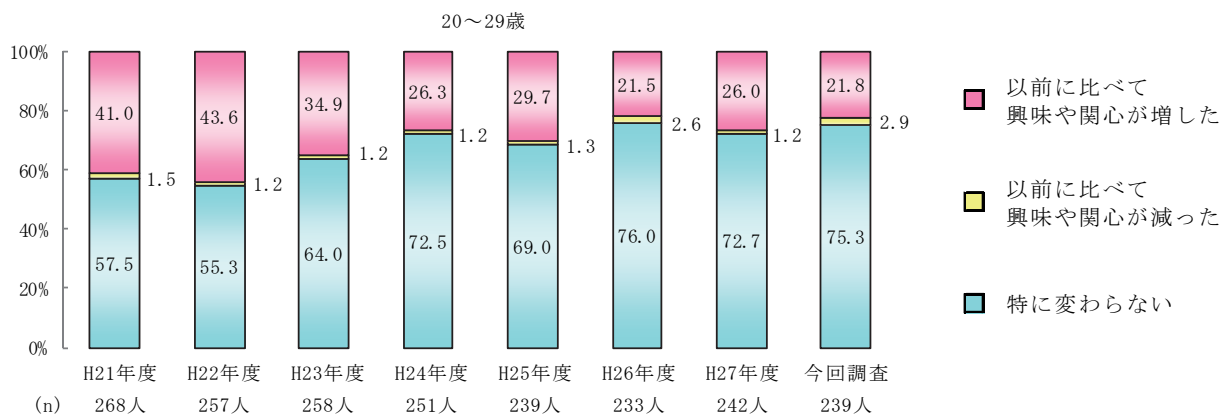
男女別・年齢別にみた場合も、「(c) 身近である」、「(g) 手続や内容がわかりやすい」、「(h) 迅速である」はQ4よりもQ6、Q7の点数が目立って高くなっている。

15 【性別】【年齢別】【職業別】の経年変化(Q3, Q11)

Q3 【回答票3】 裁判員制度が開始されてから、あなたの裁判や司法への興味や関心に変化はありましたか。



【年齢別】



※【性別】は50頁に掲載。